

令和5年度〔自己評価報告書〕

学校番号	学校名	校長名
94	川崎市立 菅小学校	戸塚 裕康

学校教育目標	今年度の重点目標
笑顔いっぱい・学びいっぱい・夢いっぱい	いつの時代にも変わらない価値のあるものを知り、かみと身につけ、自ら学び、考え、判断し、進んで行動できる人間性豊かな子どもの育成を目指す 明るく思いやりのある子 進んで考える子 健康でたくましい子 地域で学び、地域ですくすく育つ子

評価項目	具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>「菅っ子の約束」を全職員、全児童、全保護者へ共通理解し守れるようにする。</li> <li>・月ごとの生活目標を朝会で伝え、月末に振り返りができるようにする。</li> <li>・毎月学校内外の児童の行動の様子を職員会議で報告し、指導に生かす。</li> <li>・効果測定や生活アンケートを定期的実施することで学級の実態把握をし、指導に生かす。</li> <li>・生活アンケートを行い、個別の指導をする。</li> </ul>	<p>「菅っ子の約束」を児童、保護者に周知し、折に触れてルールを守ることの大切さを繰り返し指導してきた。学級活動では、月目標にそって学校の決まりを指導し、各クラスでさらに活動を深めている。また、効果測定や生活アンケートを定期的に行うことで、児童の内面への配慮もできるようにしてきた。ルールの理解はできているものの、自分で気が付いて行動することが難しい様子が見られる。</p>	<p>「菅っ子の約束」の内容を見直した上で、全職員の共通理解を徹底し、どの教員も同じようなスタンスで取り組めるようにする。引き続き、日々の学校生活を通し、善悪の判断ができるようにしていく。特に、廊下の歩行や時刻を守ることについて指導を行っていく。また、登校の時間については、引き続き保護者に理解を求めていく。</p>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・共生共育プログラムを学年ごとに実施し、互いのよさを認める心を育てる。</li> <li>・各学年で、SOS出し方、受け止め方教育の授業を行ったり、人権尊重教育に絡めた授業を行ったりする。</li> <li>・各学年で特別支援学級理解の話をする。</li> <li>・学級をよりよくするため、係活動や当番活動を活性化させる。</li> <li>・菅っ子朝会や集会で異学年交流を推進する。</li> <li>・児童会を中心としていじめ防止の話し合いや標語作りを行う。</li> <li>・委員会活動、クラブ活動を充実させる。</li> </ul>	<p>各学年、共生共育プログラムを定期的に行ったり、SOS出し方、受け止め方教育の授業を行ってきた。委員会活動、クラブ活動も活発に行うことができた。コロナの制限が緩和されて、活動が自由にできたり交流が増えたりしたことで、お互いを認め、協力する喜びを感じる機会が増えたといえる。しかしながら、学年の違いはあるが、主体的に活動できた児童と、進んで動くことが苦手な児童とで、意識に差が出ている様子が見受けられた。</p>	<p>児童が互いに協力して活動できる場を確保していくことが重要と考える。共生共育プログラムは今後も継続して実施していく。学級活動では、児童の創意工夫がなされるような工夫ができるようにしていきたい。学校、学年の行事は児童の活躍の場として今後も大切にしていきたい。いじめ防止の活動も引き続き児童の人権意識を高めるために続けていきたい。異学年交流もできる範囲で続けていく。どの児童も自分のよさを認められ、それを生かしたりできるように指導を行っていく。</p>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳の授業を通し、道徳的心情と実践力を養う。</li> <li>・学校や学年の行事の中で、お互いを助け合う気持ちを増やす。</li> </ul>	<p>道徳の授業を中心に、道徳的心情と実践力を養うべく取り組みを進めてきた。自分や友達の良いところを見つけ、人との関わりを大切に、思いやりをもって接することができるよう日々指導をしている。優しい児童が多い中、自信がもてず、自己肯定感が低い児童が少なからずいるのではないかと考える。より丁寧な指導が必要との認識をしている。</p>	<p>道徳教育全体計画の「指導の重点」を各学年で確認していく。自己肯定感をもち、自分や友達の良いところを見つけ、日常の指導を大切にしている。目的意識をもって行動することは、何に対してでも有効な手立ての一つとなりえるので、キャリアパスポートの取り組みも視野に入れ、行事への取り組みについても継続して取り組みたい。</p>
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内研究推進委員会を中心に副読本を作成し、学習環境を整える。</li> <li>・情報・モラルの学習を進める。</li> <li>・全教科・領域において、資質・能力の育成と「キャリア在り方生き方教育」を連携させ推進を図る。</li> <li>・児童の実態を念頭におき、各学年内で教材研究を行い、教材、教具を効果的に使う。</li> </ul>	<p>全職員で副読本作成に取り組めたことは、今後の学習に生かすため有効であった。GIGA端末の活用について、得意な児童と苦手な児童とで取り組みに差が見られる。また、自分の意見は言うが、友達の意見には興味がないといった姿も見られる。友達の意見を聞き、比べたり、つなげたりして考える場を設定する必要があると考える。</p>	<p>GIGA端末の利点を生かしつつ、児童によって、学習の方法を選択できるように、学習支援の仕方を考えていく。今後も、児童の実態に応じた効果的な活動の精選を検討しつつ、対話による学び合いの場面を増やしていく。学年内での教材研究を大事にして、見直しをもった単元計画を行うことで、子どもたちが最後まで意欲を持ち続けて取り組んでいけるように指導していきたい。</p>
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・算数の少人数指導で学力の定着を図る。</li> <li>・個に応じて取り出し指導をする。</li> <li>・図書室の利用や朝読書を継続し、読書習慣を身につけることができるようにする。</li> <li>・外国の文化や言語に触れ、自国の文化や言語の違いを認めようとする態度を養えるようにする。</li> <li>・学習のルールを作り、落ち着いた雰囲気の中で学べる環境を整える。</li> <li>・宿題を通して、家庭学習の習慣を付けられるようにする。</li> </ul>	<p>言われたことをがんばってやろうという素直な気持ちがあるものの、学んだことを生かすまでは至っていない様子が見られる。各学年とも、音読や日記に継続的に取り組むようにしてきたが、日常の授業の様子をみていると、最後まで粘り強く取り組む、勉強のスタミナが足りないと感じることも多かった。個々の児童の実態に応じてきめ細やかに指導することは、時間的にも人的にも難しさがあつた。</p>	<p>今年度は学習のつまづきを小さいうちに解決できるように、算数の少人数指導を低学年にしたので、その成果について、検討していきたい。新川崎市学習状況調査が今年度より始まったことで、職員間で学習の課題をみつけ、共有しやすくなったように思う。継続して利用していきたい。基礎基本の徹底を今後も大切にしていきたい。</p>
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・避難訓練、シェイクアウト訓練を計画的に実施し、防災、防犯に対する意識を高められるようにする。</li> <li>・登下校指導を定期的に行う。</li> <li>・交通ルールを守り、周囲の状況に注意して歩行することを指導する。</li> <li>・長期休みの前に朝会等で休み中の過ごし方を指導する。</li> <li>・校舎内外の安全点検を定期的に行い、けがや事故防止に努める。</li> </ul>	<p>廊下の歩行や休み時間の校庭使用等、児童が安全に過ごせるよう繰り返し指導してきたが、校内でけがをする児童は多い。また、登下校指導や交通安全教室等を通して、安全のあり方を指導してきた。交通ルールが守れていない姿も見られ、長期休業前は、児童の安全な過ごし方について、各家庭への注意喚起を行った。避難訓練、シェイクアウト訓練を継続し、自分の命は自分で守ることを意識させてきた。</p>	<p>廊下歩行の改善や休み時間の校庭での遊び方指導など、校内での児童のけがや事故を防ぐ手立てを、来年度も継続していく。また、防災マニュアルの見直しに伴い、防災教育の重点についても見直し、日常生活でも災害時においても、「自分の命は自分で守る」ことの大切さを、場面とらえて指導していく。避難訓練、シェイクアウト訓練を引き続き行う。</p>
7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動会に向け、各学年の発達段階に応じて内容を検討し、児童一人一人がめあてをもって取り組めるようにする。</li> <li>・きらきらタイムを活用し、体力作りに取り組めるようにする。</li> <li>・外部講師による授業を行い、基本的な運動の仕方を学ぶ。</li> <li>・栄養教諭と連携し、食育指導・給食指導を行う。</li> <li>・養護教諭と連携し、保健衛生指導を行う。</li> </ul>	<p>養護教諭と連携し、児童の体調や心のケアなど、すぐに相談できる環境を整え、情報の共有を図ってきた。また、体育の学習の中で、多種多様な運動を通して運動量を上げると共に、個に応じためあてをもてるような授業作りを行った。きらきらタイムを利用して、運動の機会を増やせたことは良かった。栄養教諭による食育指導は、給食の残量減につながっている。</p>	<p>運動量を保障した体育の授業やきらきらタイムは引き続き行っていく。また、規則正しい生活の必要性を保護者に伝え、協力を得られるようにしていく。養護教諭と連携し、児童の体調だけでなく心のケアも考え指導にあたる。養護教諭と栄養教諭の協力のもと、生活リズムを整えること、食事をしっかりと取ることが健康的な生活につながることを、児童に伝えていきたい。</p>
8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・のらぼう菜や梨の生産など地域の産業や菅の獅子舞などの地域文化を学習カリキュラムに入れる。</li> <li>・図書ボランティアの協力を得て、読み聞かせや読書の時間を充実させる。</li> </ul>	<p>のらぼう菜や梨、獅子舞、竹林といった地域の産業や文化、自然を学習に取り入れるようになってきた。地域の方の高齢化に伴い、協力して下さる方が代替わりするケースもあつた。引継ぎを大事にする必要を感じた。図書ボランティアの協力のもと、毎週木曜日の読み聞かせの時間を大切に、本の世界を広げる機会としてきた。昼休みに図書室を開放する日を設け、児童が本に楽しむ機会を増やすことができた。</p>	<p>図書ボランティアの読み聞かせにより、話題の本や今まで興味なかったジャンルの本と出会うことができる機会を、今後も大切にしていきたい。保護者ボランティアも含めた地域人材を積極的に生かすことを意識し、職員は時間的な余裕をもって単元計画を進めていく。また、協力して頂く方に、授業のねらいや目標を明確に伝えていく。</p>

学校関係者の評価	学校運営のまとめ
<p>○1年生も学校生活に慣れ、どのクラスも落ち着いて楽しそうに授業を受けている姿に安心した。2年生以上の学年も落着いた話をよく聞いている姿が多くみられ、前向きに授業を受けていることに成長を感じる。少人数での算数の授業もよい効果があると思われる。</p> <p>○子どもと先生のコミュニケーションが取れていて、たくさんいい表情で過ごしている様子が見られ、安心できる。</p> <p>○菅小の児童は、いつみても素直な子どもが多い。その素直さを大切に育ててくださった教職員の皆様へ感謝している。</p>	<p>コロナの制限が緩和されたことで、行事や学習活動が以前のようになり、活気もどったように感じた。達成感を感じている児童がいる一方で、人とのコミュニケーションが苦手な児童、自信がもてず自己肯定感が低い児童もいて、指導の難しさを感じている。子どもたちの多様なニーズに応えるべく、職員間で知恵を絞って対応する毎日であった。支援教育Coと担任や学年が連携することは、多様な手立てを考える上で効果的であり、子ども、保護者、教員が安心して過ごせることにつながっている。さらに、来年度は150周年を迎え、周年式典を控えているため、すでに、スローガンやマスコットを決めるなど、動き始めている。来年度も、地域、家庭との連携を密にしながら、子どもたちが安心して過ごせる学校づくりを、全職員で行ってきたい。</p>